１．　環境学習コーディネート実施概要（Web 掲載）

依頼№	6	事例№	5	依頼者	あま市立甚目寺小学校	実施場所	あま市立甚目寺小学校
実施対象	小学 4 年生 3 クラス　96 名						
実施日時	令和 7 年 6 月 20 日（金）9 時 35 分～10 時 20 分、10 時 50 分～11 時 35 分、 11 時 40 分～12 時 25 分（クラス別に実施）						
テーマ	よりよい環境づくりのために自分たちでできることを考える						

●依頼内容

よりよい環境づくりのために自分たちができることを考え、実践する態度を育てるとともに、環境整備に携わる人たちの思いや願いに支えられて今の自分たちの町があることを理解するための総合的な学習の講師の紹介。

●講師：則竹昌幸 氏（環境カウンセラー）

則竹昌幸氏は、海部津島環境事務組合の職員で、環境カウンセラーのほか、環境計量士、環境社会（ECO）検定、省エネルギー普及指導員、自然観察指導員、公害防止管理者、省エネ・脱炭素エキスパート（家庭分野）の資格を有している。その他、「あいち地球温暖化対策人材登録・紹介ネット（温暖化まなびネット）」にも登録されている。

●授業の内容　（各クラスとも同じ内容で実施）

講義	授業は、ごみ処理の歴史と課題をテーマに行われた。 はじめに、ごみの問題を考えるために、縄文時代から現代にいたるまでのごみ処理の歴史を学んだ。特に、現代は、高性能のごみ焼却炉が開発されて公害問題が発生しなくなっているが、処理に莫大な費用がかかるとともに、燃やした後に残る灰による問題もあることを学んだ。 つづいて、現代のごみの問題を解決するための方法を考えた。最も大切な取り組みは、ごみを減らすことであり、そのための方法として、４Ｒ（リデュース：ごみ減量、リユース；再利用、リサイクル：再生利用、レフューズ：断る）という考え方を学んだ。また、ごみを正しく分類すること、自分の出したごみの行方に関心を持つ（自分の問題としてとらえる）ことが大切であることを学んだ。 講義を受けて、子どもたちはごみ処理問題を解決するために自分たちでできることを考え、記録用紙に記入した。	45 分

●授業の様子

講義は、視覚的に伝わりやすいパワーポイントを活かして説明が行われた。子どもたちは今日の授業に先立ってごみ処理施設の見学を行っており、そこで学んだ内容と重ね合わせながら、ごみ問題の歴史や課題について真剣に聞いていた。そして、わからない点について講師に積極的に質問をしたり、よりよい環境づくりのために大切なことや自分たちにできることを考えてメモをとったりしていた。

ごみ処理の歴史と課題について学んだ。



ごみ問題の話を聞いて自分のできることを考えた。

